

【目指す学校像】 笑顔あふれる学校
 【目指す児童像】 ○学ぶ意欲あふれる児童 ○明るい笑顔とやさしい目をした児童 ○決まりを守り、互いを尊重し合える児童 ○強い体と心をもった児童 ○いかなる差別や偏見をしない・許さない児童
 【目指す教師像】 ○児童の学びに火をつける教師 ○一人一人を大切に、支援できる教師 ○組織の一員としての意識をもち、職層に応じた使命と役割を果たせる教師 ○服務規律を重んじ、児童・保護者の信頼に応える教師
 ○教養を向上させ、ゆとりある精神状態で指導にあたる教師

前年度までの学校経営上の成果と課題【成果】・新しい教育に向け、授業改善への意識の高揚 ・社会とつながるプロジェクトの確立 ・端末を中心としたICTの効果的な活用方法の確立 ・地域人材の発掘
 (箇条書きで簡潔に) 【課題】・身に付けさせたい資質・能力を意識した授業実践 ・児童が自ら思考し、豊かに表現する力の育成 ・個別最適、協働的な学び、時間と空間を超えた端末利用 ・心身ともにゆとりをもって児童とじっくり対面するための働き方改革

3つの施策	中期経営目標(施策の内容)	「取組・努力」の評価基準(学校・教職員の姿勢、取組状況)	評定	3学期評定	実態や改善に向けた意見	「成果」の評価基準(児童・生徒の変容)	評定	3学期評定	実態や改善に向けた意見
小中一貫教育を柱とした特色ある教育の推進	①小中一貫教育の推進	・「9年間のゴール」を見据えた小中9年間カリキュラムを計画的に実施している。 ・高学年の乗り入れ授業を3教科×2回実施する。 ・地域人材を活用した授業を企画、実践している。 ・積極的に保護者・地域に授業を公開し、学習につながる人材を発掘している。	4 3 2 1	3.3	中学の先生が小学校で授業をすることで小学校授業の実態を理解してもらうことができた。また、E組との連携は大変有効的であった。」保護者・地域の参画については、より積極的に呼び掛けを行い、人材の発掘を進めていく必要がある。。	・ゴールに向かった自身の力が身に付いている。 ・中学進学イメージを具体的に描けている。 ・地域の協力やかかわりの中で、児童が豊かに学んでいる。 ・保護者、地域が参画する授業が充実している。	4 3 2 1	3.4	中学と連携することで、進学のイメージをもたせやすい反面、限られた時間の中での打ち合わせや事前準備の負担はある。小中合同会議をより有効活用していく。保護者・地域の方が身近な存在となり、気軽に参画できるような体制作りを行う。
	②確かな学力の定着	・授業と朝学習、各種補習一体化と家庭学習の定着度の向上 ・指導と評価の一体化がされた授業の実施 ・児童が問いを作り出せる課題設定を充実させ、多様な他者とかわることができる授業改善 ・3つの視点に沿ったユニバーサル・デザインによる授業を行っている。	4 3 2 1	3.0	学習習慣を定着させていくには、学習の基本姿勢について、学校全体で徹底して指導する必要がある。さらに、基礎技能の確実な定着を図るための手立てを引き続き模索していく。	・学習習慣が以前より身につけてきた。 ・学ぶ意欲が以前より向上した。 ・自己の能力にあった学習に主体的に取り組むことができた。 ・授業が分かりやすい。	4 3 2 1	3.0	児童が「楽しかった」だけで終わらず、「これを学んだ」と言えるような授業改善を行っていく。学習習慣の定着に向け、家庭での協力を得られるよう「家庭学習のすすめ」を作成し、啓発を行っていく。
	③特色のある教育の推進	・多様な他者とのつながり、協働的な学習環境を積極的に作っている。 ・学級活動や特別の教科道徳を活用し、リーダーシッププログラムを実践し、キャリア・パスポートに蓄積している。 ・学習につながる地域人材を発掘している。	4 3 2 1	3.1	本物との出会いはかけがいのないものである反面、新たな地域人材の確保は簡単ではない。また、事前打ち合わせの確保も課題である。コミュニティ・スクールを活用して、スムーズに連携できる体制を構築していく。	・他者とつながることで、自分の考えがより深まった。 ・リーダーシップが身に付き、正しい行動を選択できる。 ・地域人材の活用により、児童が意欲的に学習に取り組むようになった。	4 3 2 1	2.7	学習や体験をした時は、児童も大変意欲的になっているが、その後の学習や行動に繋げることが難しかった。児童が継続的に学習や生活に活かしていけるよう、具体的にイメージできる活動を模索していく。
	④新しい課題に対応した教育の推進	・すべての命を守る意識と行動力を身に付けさせる。 ・武蔵野情報科年間計画に沿って指導している。 ・読書への関心を高め、常に読みかけの本が常にある。	4 3 2 1	2.9	端末活用では、実態に合わせてルビ機能や手書き検索機能を活用できた。教員のおすすめの本を図書室に掲示したりして、児童の読書への興味を高める工夫をする。	・自他の健康を守るために大切なことを理解している。 ・情報モラルを守って、正しく端末を使用することができた。 ・学年に応じた端末活用が身に付いている。 ・一人月平均3～5冊の本を読んでいる。	4 3 2 1	3.1	学校では情報モラル教育をしているが、それが家庭で生かされずSNSトラブルになることがあった。理解しているも実践につながらない部分があり、より一層家庭との連携を図っていく必要がある。
	⑤人権教育の推進と道徳教育の充実	・学級以外の児童に対しても支援を行っている ・人権尊重、こころの教育、道徳授業を積極的に行っている ・掲示された事例に触れた指導を継続して行っている。 ・校内授業公開や授業参観を2回以上行った。	4 3 2 1	3.4	道徳の授業以外にも様々な場面で道徳的な指導を行っていく。教員が児童の名前を呼び捨てにしない。	・困ったことがあったときは、大人に相談することができる。 ・正しい言葉遣いを意識して生活することができる。 ・道徳の授業では、自分の考えをもつことができる。 ・振り返りノートに自分ごと化できた記述をしている。	4 3 2 1	2.7	多くの場面でやさしさあふれる行動を見ることができるようになったが、見えないところで自制が効かない場面があった。むさしのリーダーシップを育み、自律した児童を育成していく。
多様なニーズに応じた教育の推進	⑥特別支援教育の推進	・なかよし学級制を活用した交流活動の回数を増やす。 ・なかよし学級の活動の幅を広げる。 ・障害者理解教育を全学級で取り組む。 ・校内委員会を中心に共通理解のもと一人を全職員で支援する。	4 3 2 1	2.9	情報共有の場はあるが、具体的な手立てを話し合う時間が足りない。特別支援コーディネーターを中心に効率的な運営を行なっていきたい。教員間の連携をさらに強化していく。	・むさしの学級等の児童と分け隔てなく接することができる。 ・なかよし学級制の活動は楽しい。 ・郊外においても障害のある人に親切にできる。 ・困っている友達がいたら進んで声をかけることができる。	4 3 2 1	3.9	なかよし学級制は有効であるが、その分むさしの学級担任の負担も増えてしまう現状がある。より自然に交流できるように、出席番号や並び順も工夫していく必要がある。
	⑦子供たちが楽しく通える学校の実現	・年間指導計画に沿ってむさしのリーダーシップに取り組む。 ・児童の自己有用感が高まり、前向きに取り組む姿がある。 ・気になる様子の児童に対し、すぐに声をかけることができる。 ・児童が自分ごととして参加する道徳授業を実践する。	4 3 2 1	3.3	むさしのリーダーシップの用語を普段の指導から積極的に組み込んでいく。「笑顔」を意識するようになって、廊下などで、児童に積極的に声を掛けることが増えた。	・自分や他者を大切にしている。 ・困ったときに相談できる大人が校内に3人以上いる。 ・「人も自分も環境も大切に」を意識した日常生活の活動や行動ができる。	4 3 2 1	3.0	理解しているも、失敗を恐れて消極的になってしまう子が多い。学校全体として、「間違っても大丈夫」という安心感を醸成していく。「SOSカード」を活用して、3人の教職員の名前を具体的に書く活動をおこない、いつでも相談できる環境を整える。
健やかな成長を支える教育環境の整備	⑧児童・生徒理解に基づく指導体制の構築	・体罰及び不適切な指導ゼロ ・児童のよさを発見したり、共有することができる。 ・いつもで気兼ねなく相談できる教職員が3人以上いる。 ・心にも時間にもゆとりをもって働くことができる。	4 3 2 1	3.0	一人で抱え込まないよう学年会がなくても毎日児童の様子を共有しているが、勤務時間内でやり切ることは正直難しい。介助員や支援員と打ち合わせをする時間が確保できるとより効果的な支援ができると思う。	・体罰調査 0件 ・友達のよさやがんばりをみつけすることができる。 ・学校にはいつでも相談できる大人がいる。	4 3 2 1	3.3	友達のよさは比較的に見つけられるが、自分のよさを見つけれない児童が多い。互いに良さを伝え合う機会を増やすとともに、多くの教職員からも認められる経験をさせ、自分に自信をもたせていく。
	⑨OJTを中心とした校内研修体制の確立	・OJTによって自己の成長が見られる。 ・OJTの指導者側となることで、さらに見識が深めることができる。 ・マイスター制度によって、日々の授業や校務が改善した。	4 3 2 1	2.8	OJT、マイスター制度は有効であるが、時間の確保や時間割の調整に難しさがある。継続して取り組めるよう、授業参観がしやすい時間割の工夫や放課後の時間の確保を進めていく。	・学級経営が安定していて、児童が落ち着いている。 ・授業改善が進んでいて、児童が進んで授業に参加している。 ・教職員がゆとりをもって働いているのが分かる。	4 3 2 1	3.5	より教師が余裕をもって笑顔で働けるように業務の改善と対話と協働を進めていく。OJTの時間を出張の少ない曜日や時間に設定し、多くの教員が参加できるようにする。
	⑩保護者や地域住民の協力・参画	・学校の教育活動の様子がよくわかる。 ・HPの適時更新ができています。 ・地域人材を活用することでより活動が充実している ・家庭科支援や生活科見学時などの補助等を積極的に依頼する	4 3 2 1	3.2	HPはより見やすくなるように刷新する。ブログの閲覧数を増やすための方策をさらに検討する。保護者がより参加しやすい、ボランティア制度などをコミュニティ・スクールの強みを生かして構築していく。	・学校の話や毎日常話を家族と話をする。 ・保護者、地域の人と勉強するのが楽しい。 ・保護者、地域と勉強することでよりよく分かった。	4 3 2 1	2.8	積極的に地域・保護者へ声を掛け、何度も学校に足を運んでもらうことで、実際の様子を見てもらう機会も増やす。地域の方の顔が見える活動を増やしていく。
学校の特色	読書活動や図書館の利用及び学校の特色や独自性のある取組	・書字に対する抵抗感が減り、意欲的に書く児童が増える ・自分の考えを発表する場面を意図的に増やす授業の実践 ・図書館を有効活用した言語活動を行っている ・登校60分前までに起床する有効性を児童、保護者に啓発	4 3 2 1	3.1	文字で表現する活動を意図的に増やし、書字に対する抵抗を減らしていく。低学年から基本的な学習に対する取組を一貫して身に付け、進級しても戸惑わない習慣づけをする。	・文字を書くことが楽しい。 ・自分の思いを伝えることが楽しい。 ・図書館では、読書以外の勉強をしている。 ・登校60分前に起きることができた。	4 3 2 1	2.0	表現する楽しさを味わわせるために、安心して発言できる環境整備を行う。図書室に学習・情報センター機能をもたせ言語活動を充実させる。ゲームや動画依存の怖さを保護者に啓発する機会を設ける。